

Fusyo Collaboration letter

10月31日

No.30

文責 廣田 秀俊



何算で解いていく？どうすればできるかな？

「どんな面積も求めることはできるかな？」先生の問いかけにももちろんという表情で反応する子供たち。4年生の教室で算数の授業が始まりました。

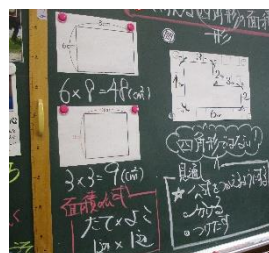
掲示された長方形と正方形の図形を見て、瞬く間に答えを導き出す姿がありました。それぞれの公式を使うことで、解答へとすすんでいくことができます。



次に出てきた図形は少し形が違いました。その図形を見て「いける！」「難しいかも…」などのつぶやきが聞こえてきます。これまでの問題ではすぐ答えが出ていたけれど、今度は形が中途半端なためすぐには答えが出てこないようです。どうするのかを課題として取り上げ考えます。

【課題】四角形でない形の面積を求めるのはどのようにすればよいか。子供たちの声で課題が決定しました。見通しとして公式を使えるようにしようという声があがりました。図形を見て、子供たちからはキーワードとして＜分ける＞＜つけたす＞の言葉も出てきました。

配られた図形の用紙を使って、次々と解き方を生み出す様子が見られます。「もうちょっと時間が欲しい」という声とともに、できたことを自然と友達と交流を始めていました。答えを導き出す方法をみんなで確かめ合いました。図に線を書き込むことで9通りの方法を発見しました。



一つ一つの方法に反応が聞こえてきます。「あ～なるほど」「それが1番正確」「え？そんなやり方があるの」「○○さんのやり方は下につけたす方法、●●さんのやり方は分ける方法」いろんな解説もしてくれます。



“公式が使える”というキーワードから、大きく三通りの方法を導き出していくことができました。①分けてたす②移動する③つけたして引く。③の方法の説明は、「公式を使えるようにつけたした。だからつけたした分だけ減らしていく」というものでした。

まとめとして『四角形ではない形の面積をもとめるには、方眼を使ったり、分けてたしたり、移動させたり、つけたして引いたりすればよい』という結論が出ました。



ふり返りでは「新しい意見を聞くことができた」「もう少し深めていきたい」「求め方がたくさんあった」「友達に教えてもらえた」など、たくさんの声を聞くことができました。今後、教科書の問題など、他の形にも使えるのか、様々な問題にチャレンジしていきます。

